

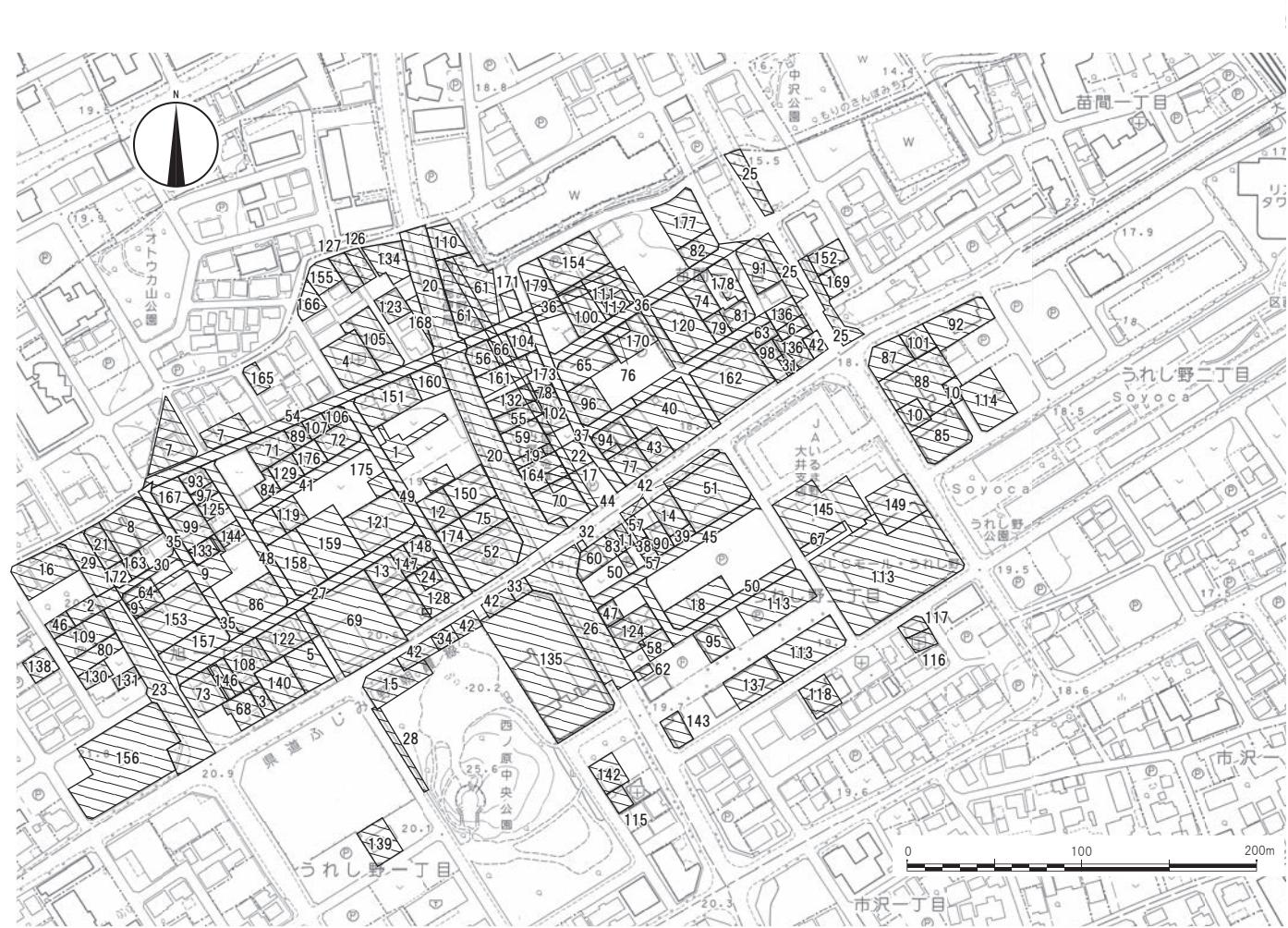
第13章 西ノ原遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、淨禪寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2021年4月現在で179地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、210軒を超す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第46図 西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)

II 西ノ原遺跡第179地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2020年8月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや北寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年8月4・5日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレントチ4本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30～60cmである。

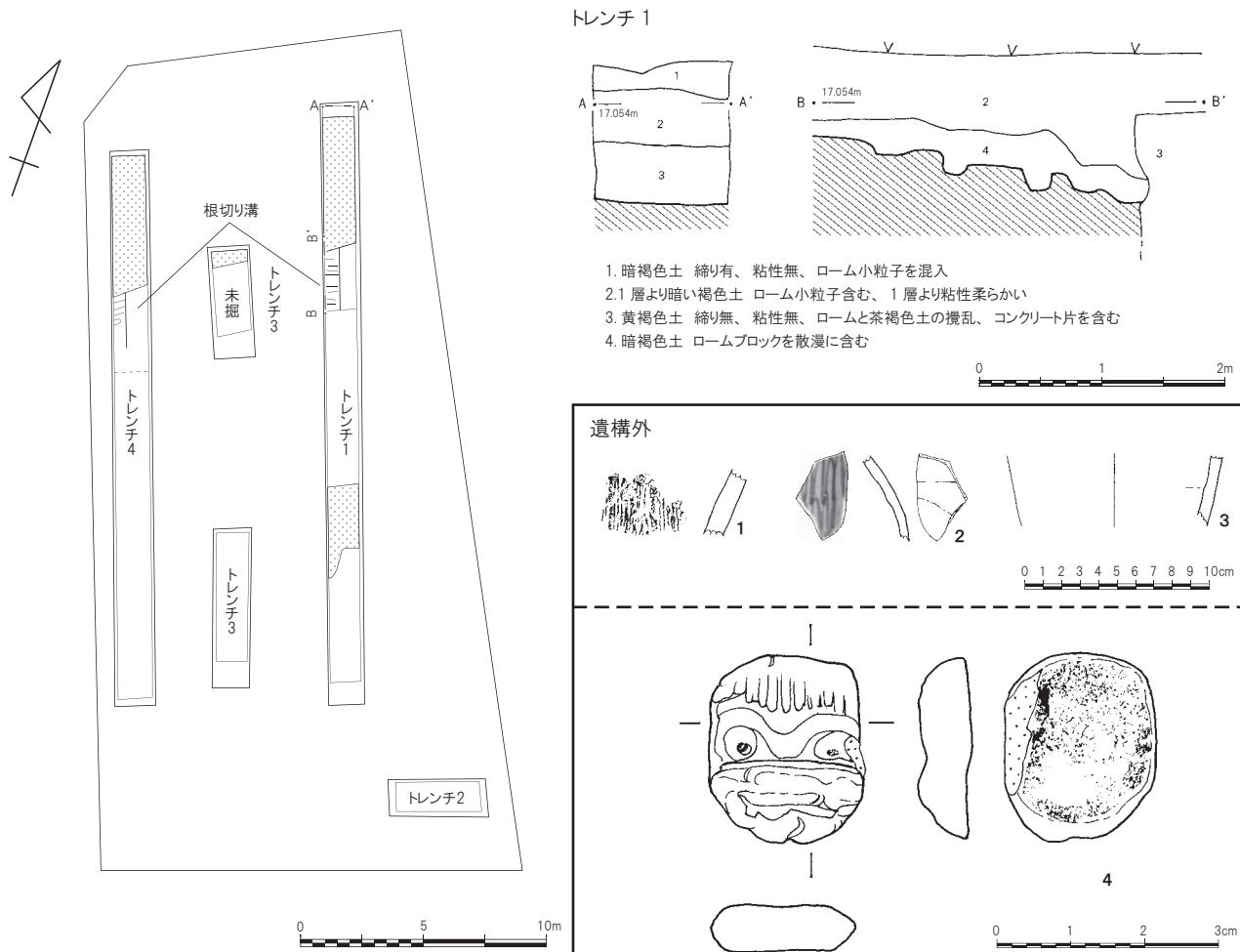
調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

表土中より土器片が数点出土した。詳細については第47図及び第32表に掲載した。

第32表 西ノ原遺跡第179地点出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第47図-1	遺構外	縄文土器	—	—	—	—	外面条線	加曾利E式期
第47図-2		磁器瓶	—	—	—	—	輶轆成形、呉須染付、1条網目文、外面から内面上半に施釉、肥前産	17世紀
第47図-3		陶器植木鉢	—	—	—	—	輶轆成形、灰釉、内面無釉、瀬戸美濃産	19世紀
第47図-4		泥面子	2.5	2.1	0.6	—	芥子面、型作り、裏面指痕	19世紀



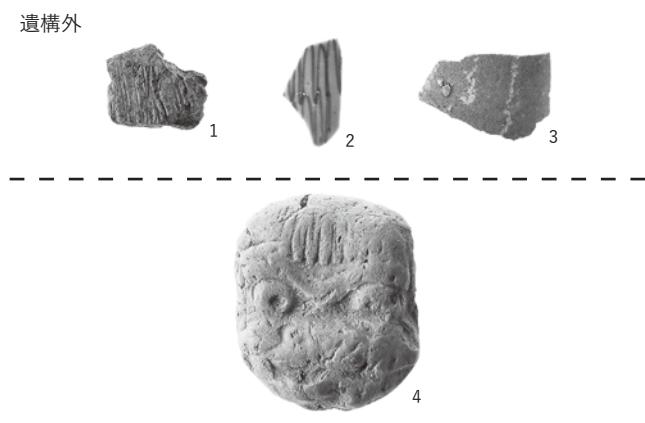
第47図 西ノ原遺跡第179地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)、出土遺物(1/4・1/1)



西ノ原遺跡第 179 地点トレンチ 1



西ノ原遺跡第 179 地点トレンチ 3



西ノ原遺跡第 179 地点出土遺物



西ノ原遺跡第 179 地点（博物館実習）



西ノ原遺跡第 179 地点（博物館実習）